



地域全体を学びの場に…

山北町社会教育委員会では、令和7年度から【地域全体を学びの場に…】という考えをもとに、地域における社会教育のあり方について研究を進めています。

私たちは多くの《ひと・もの・こと》との関わりを通して様々なことを学び、成長していくとされています。こういった点から考えて、今の地域社会では益々【地域全体を学びの場に…】という視点が大切になってきています。



平成から令和への時代の移り変わりの中で、少子高齢化や過疎化という目に見える変化だけでなく、地域の人々の価値観の変化、個人情報保護、情報化社会等々の社会情勢の変化もあり、地域の人々の交流が減少し、地域の活性化や教育力の低下が危惧されています。

こういった状況から私たちは「共に生きる」「共に育てる」という意味の【共生・共有】を掲げて地域教育力の再構築に取り組んできました。

従来から「社会教育」は、“学校教育以外の場で青少年及び成人を対象として行われる組織的な教育活動”として位置づけられてきました。現在では「生涯学習」を大きな目標とし、山北町の生涯学習の基本目標には『子どもから高齢者まで、生涯にわたり学び、生きがいのある充実した人生をおくることができ生涯学習社会の実現』と記載されています。私たち社会教育委員会も幅広い世代が充実した学習活動が行えるよう以前から研究や課題等に取り組んできました。

しかしながらここ10年程前から、文部科学省の子ども達の教育に関する取り組みに大きな変化が生じてきました。そのきっかけは、平成16年（2004年）のコミュニティ・スクール※1の制度化です。（地域教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正）その後、平成29年（2017年）には、“学校運営協議会”※2の設置が各教育委員会に義務付けられ、現在に至っています。

では、従来の教育のあり方と、何が違うのかということになります。以前は「家庭」「学校」「地域」と教育の役割（分担）がはっきり分かれていました。家庭や地域が学校に協力する場面は、子ども達の活動の手伝いや奉仕活動等のボランティア的な活動が多かったと思います。学習面においては、地域の歴史を学ぶ際に、歴史に詳しい人から話を聞いたり、家庭科のミシンボランティアの支援を受けたりする等々もありましたが、人材を発掘し取り組みを継続するには課題もあります。

山北町では現在、「やまきた学び【裏面参照】」において地域人材・学校支援ボランティア等の活用を図りながら、豊かな学びを目指したカリキュラムが実践されています。

コミュニティ・スクール※1（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に**学校運営協議会※2**を中心とした地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

《やまきた学び》

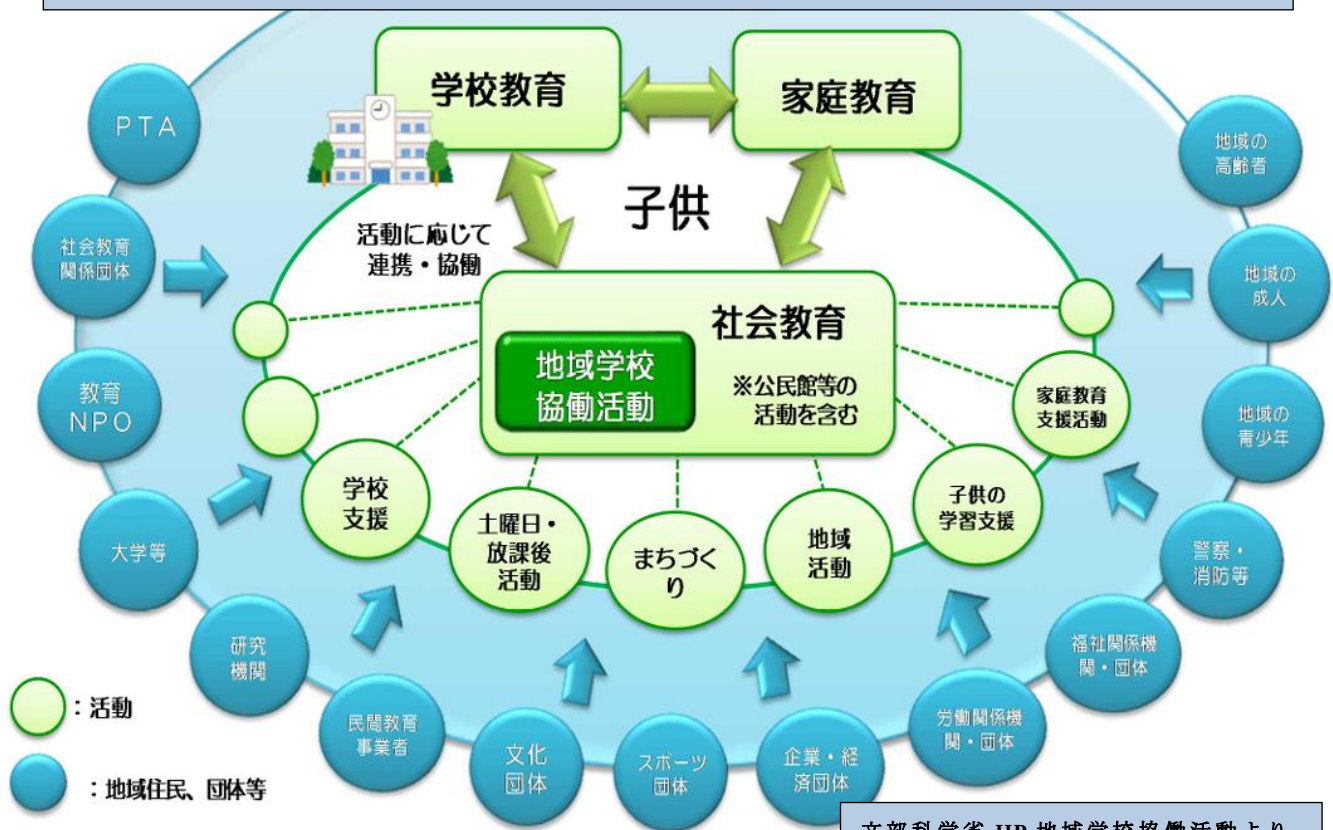
（郷土愛の育成に資する学習）

令和7年2月に策定された「0歳から15歳までの一貫教育・保育」カリキュラムの中にある《やまきた学び》のねらいは、“身近な地域や山北町に対する関心や愛着を深め、ふるさと「山北」への誇りを育てる”となっており、自然や産業・文化や歴史、町の現状や課題に対する探究活動をはじめ、地域の人々との関わりを通しての学習活動の重要性を述べています。

【参考】文部科学省は、下記の図のように地域と学校の結びつきを示しています。

地域学校協働活動の概念図

地域学校協働活動とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。



文部科学省 HP 地域学校協働活動より

地域教育力に関する「アンケート調査」を実施しました。

地域の教育力の現状を調査するため、生涯学習に関する活動に取り組んでおられる組織や団体等の代表の方々に、アンケートをとらせていただきました。

◎アンケートをお願いした組織、団体等

- | | | |
|------------------|-----------------|--------------|
| ①各連合自治会 | ②青少年指導員協議会 | ③スポーツ推進委員協議会 |
| ④スポーツ協会 | ⑤婦人会連絡協議会 | ⑥PTA 連絡会 |
| ⑦文化団体連絡協議会（加盟団体） | ⑧老人クラブ連合会（加盟団体） | |
| ⑨文化財保護委員会 | | |

ご協力いただきました方々には、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。